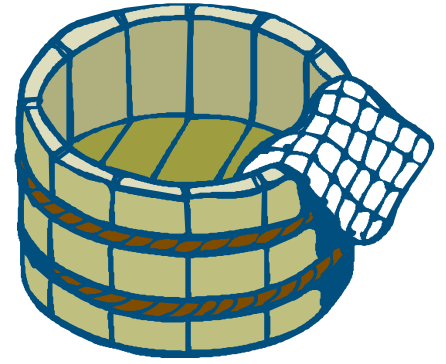


お風呂



「お風呂の大好きな民族」として知られている日本人。
朝晩寒さを増してくるこの季節は、お風呂が恋しくなってきますね。
今回は、そんなお風呂に関する本を集めてみました。

『銭湯読本』

The new life with sento』
Sento Style 推進委員会/編 町田忍/監修
アーティストハウスパブリッシャーズ
383.6/セ



津々浦々、いろいろな銭湯を紹介。たくさんの写真を使って、銭湯の楽しみ方入門もあり、銭湯に行ったことのない人でも楽しめます。

『のほほん風呂』

おうちでカンタン季節の湯』
たかぎなおこ/著
産業編集センター 498.3/タ



著者は三重県出身のイラストレーター。
季節の湯というと、5月の菖蒲湯、12月のゆず湯などを想像しますね。ここでは牛乳、ワカメ、きゅうりなど台所にあるものが次々と入浴剤に早変わり。
イラストを使って使い方、効き目、ポイントが書いてあってわかりやすい！！
早速今日から、試してみたいくなります。

風呂の始まり

日本での風呂の歴史は古く、仏教の布教とともに「入浴によって七病を除き、七福を得る」という功德を説き、無料で庶民に入浴の場を提供する施浴が行われるようになりました。

荘園制度の崩壊とともに入浴料をとるようになり、これが銭湯のはじまりだといわれています。

銭湯が本格的に広まったのは江戸時代になってからです。

伊勢与市【いせのよいち】

江戸の銭湯のはじまりは、『慶長見聞集』に、天正19（1591）年に伊勢与市というものが銭瓶橋【ぜにかめばし】に湯屋を開業したというのが、記録にあらわれた最初の銭湯になります。銭瓶橋は、現在の東京駅の近く、江戸橋付近になります。

この伊勢与市という人物は、なんと伊勢出身の人です。

河崎にある 伊勢まちかど博物館の[汐湯・おかげ風呂館 旭湯]では、伊勢与市翁像があり、風呂にまつわるさまざまな品が展示されています。



『女湯に浮かんでみれば。』

堀ミチヨ/著 新宿書房 383.6/ホ

「銭湯って面白い」

お風呂なしのアパートに住んでいる作者が、銭湯であった出来事を面白おかしく書いた1冊です。

おうちにお風呂がないとすごく不便と思う人も多いはず、でも、お風呂がなくても、メリットはあるんです。



お風呂や銭湯の絵本も集めました◆◆◆

『ふくのゆのけいちゃん』 秋山とも子/さく 福音館書店 E/フ
5月5日の菖蒲湯のお風呂屋さんの一日。

お風呂屋さんの娘、けいちゃんの視線から描かれています。

『パンダ銭湯』 tupera tupera/さく 絵本館 E/パ
パンダのためのお風呂屋さん。パンダ以外の入店は固くお断り。そこには私たちの知らないパンダの秘密が……。

『こんやはなんのぎょうれつ?』

オームラトモコ/作 ポプラ社 E/コ

妖怪や神様たちが一列に並んで進んでいきます。

その先に待っているものとは?



ぽっか
ぽっか

温かくなれる 1冊をどうぞ!